

《別府市社協(大分県)における〈体験プログラム〉のコンテンツ例》

別府市社協(大分県)は、「福祉フォーラムin別府速見実行委員会」と協働し、毎年、市教育委員会が主催する校長会で、多様な福祉教育の授業メニューを紹介しています。また、市教育委員会で情報交換できる機会を設け、教育長を含めた教育行政にも協力を仰いでいます。さらに、授業メニューでは以下のような発達段階等に応じた企画を意識しています。

幼稚園 できるだけ体験メニューを組み、口調が柔らかい講師を選ぶ

小学校 講義後に体験型のメニューを加え、学年に合わせた講師を選ぶ

中学校 講義後に自分ならどうするか、どのように捉えたかを考える思考型のメニューを組み入れる

支援学校等 体験型を中心にゲームを取り入れたような参加型メニューも組み入れる



障害者スポーツ



ファッションショー



絵手紙教室

別府市社会福祉協議会 地域福祉係 係長 上里 情 さん

子どもたちの「自己認識力」を高めるコンテンツ(例)

- 小地域ケア会議※¹を子どもたちがやってみる
- 地域福祉活動計画の策定時に、意見を言える(座談会を開催)
- 子ども民生委員、子ども福祉委員として活動する
- 自分も福祉の対象であることを知る(輪ゴム取りゲーム※²等)
- 地区社協の活動に参加し、自分が住む地域の人々のことを知る

※¹ 概ね小学校区や旧村エリアを単位とし、住民福祉関係者(民生委員・児童委員、福祉委員、地区社協役員等)や行政担当者、サービス事業者が福祉のまちづくりにむけて協議を行う会議

※² 左手首につけた輪ゴムを、右手や口などを使わずに外すゲーム

子どもたちの「知識力」を高めるコンテンツ(例)

- 「孤立」や「孤独」等の地域生活課題を考える
- 地域に住む人たちが生活する上での困りごとを考える(買い物やゴミ出し等)
- 子どもに関わりのある活動取材する(放課後デイサービスや子ども食堂等)
- 障害特性や病気、福祉サービスや制度などについて知る
- 担当地区の民生委員から役割等についての話を聞く
- 社協の事業所や地域にある福祉施設等を見学する

(いくつか挙げてみましょう)



【事後学習】

福祉教育の協力者を見つけて、地域のつながりの輪を拡げていこう！

社協職員はゲストティーチャーではなく、コーディネーターです。市町村教育委員会等の教育関係者や、地域のさまざまな人や団体のみなさんと一緒に考えながら進めていくことで、多彩なコンテンツやアイデアが広がり、子どもたちに福祉をより伝えることができます。

また、社協が中心となり、定期的に学校や地域のみなさんと自分たちの地域について考える場を創ることで、ゆるやかなつながりが少しずつ生まれ、福祉教育が実践されていく仕組み（プラットフォーム）が形作られていきます。

社会教育分野の方々や、市町村内の福祉施設、民生委員・児童委員（主任児童委員）など、「学校・教育」と「社協・福祉」のネットワークを活かして、福祉教育を実践する協力者を見つけ、地域のつながりの輪を拡げていきましょう。

学校・教育／社協・福祉のそれぞれが持つネットワークイメージ

～福祉教育ガイドブック作成検討会で挙げた参考例～

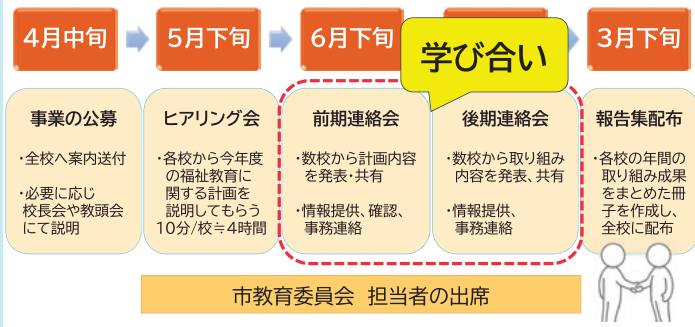


《津山市社協における実践例》

津山市社会福祉協議会は、「福祉教育推進事業指定校事業」という独自事業に取り組み、先生による福祉教育プログラムの取組発表や意見交換による学び合いの機会を提供しています。

また、生活支援コーディネーターである社協職員がコミュニティ・スクールや公民館長会、PTA人権講演会等に出向いたり、校長先生が代わったタイミングで学校に対しても積極的にアプローチしたり、三世代交流や子どもの学習支援等を学校とともにを行っています。

福祉教育推進事業指定校 事業の流れ



津山市社会福祉協議会 地域福祉課 福祉係 主任 黒田 雄基 さん

「福祉教育推進プラットフォーム」は以下のような機能が求められます。

- ① 目的を共有する人や組織が主体的に参加できる場であること
- ② 誰もが参加でき、自由度が高い場であること
- ③ 福祉教育の実践プロセスを重視する場であること（PDCAサイクルのチェック）
- ④ 多様な人たちの出入りが可能で、福祉教育プログラムの内容や目的に応じて柔軟にメンバーや協議内容が変化する場であること
- ⑤ 固定化・常設化しない場であること

全国社会福祉協議会 全国ボランティア・市民活動振興センター 副部長 河邊 裕子 さん

コラム 「地域にいる社会教育関連の人」ってどんな人たち？

地域には、子ども会や青年団、婦人会、ボーイスカウト、ガールスカウト等の社会教育関係団体、子どもたちに関係する活動を行っているNPO団体や、学校と地域をつなぐ役割を担う地域学校協働活動推進員、教育委員会で社会教育について専門的な助言等を行う社会教育主事、公民館等の社会教育施設の職員など、様々な社会教育関連の人がいます。

社会教育関係者とつながりたい場合は、まず域内の教育委員会の生涯学習・社会教育担当課へ連絡してみてください。

● 社会教育主事

社会教育主事は、社会教育を担う地域のリーダー等の求めに応じて、専門的な立場から助言や指導を行っています。地域社会では、学校のほかにも公民館や生涯学習センターなど、多様なところで教育活動が行われているため、そこで行われる事業を企画したり、運営についてアドバイスしたり、自ら携わったりしています。

[次ページに続きます]

● 地域学校協働活動推進員(コーディネーター)

地域学校協働活動推進員は、地域と学校の連携・協働の推進に当たって重要な役割を果たしています。特に、地域と学校との連絡調整、情報の共有や地域学校協働活動の企画、調整、運営、そして地域住民への呼びかけ等の役割を担い、質の高い教育活動を展開するために不可欠な存在であるため、地域のキーパーソンとも言えます。

● コミュニティ・スクール

コミュニティ・スクール(学校運営協議会制度を取り入れている学校)は、「社会に開かれた教育課程」の実現に向けて、学校、保護者、地域住民が情報や課題を共有し、子どもたちの健全な育成のための共通の目標・ビジョンを設定し、同じ思いで教育活動を進めていく重要な仕組みを指します。学校と地域住民等が力を合わせて学校の運営に取り組むことが可能となる「地域とともにある学校」への転換を図るための有効な手立てです。

● 地域学校協働活動

幅広い地域住民らの参画を得て、地域全体で子どもたちの学びや成長を支えるとともに、『学校を核とした地域づくり』を目指して、地域と学校が相互にパートナーとして連携・協働して行う様々な活動のことです。活動内容は、学校支援ボランティアや放課後子ども教室、地域未来塾、土日の教育活動、家庭教育支援活動、学校が関わる地域活動など多岐に渡っています。

● 社会教育委員

「社会教育法」に規定され、社会教育に関する計画の立案や調査研究などによって、社会教育に関して教育委員会に助言をする役割を果たしています。地域において社会教育に優れた知見を有する人々の知識を社会教育行政に反映させています。



コラム 「Let's Try Welfare 福祉紹介キャンペーン活動」ってなーに？

この活動は、岡山県社会福祉協議会、岡山県社会福祉法人経営者協議会（岡山県経営協）が主体となり実施しています。子どもたちが福祉を身近なものとして捉え、自分との関わりに気づき、ともに生きることの重要性が理解できるよう取り組む活動です。

また、キャリア教育として、次世代に福祉の仕事の魅力を伝え、興味を持ってもらうことも目的としています。

具体的な活動のご紹介

小・中高校や大学等への訪問等による講話やワークショップの実施（出前講座）

学校の授業の中で、福祉現場で働く福祉専門職（福祉紹介キャンペーンスタッフ）から、福祉の仕事や魅力、やりがい等を子どもたちに直接伝えています。

福祉に関する資格取得に向けた進学や就職等への支援、ボランティア活動の積極的促進、福祉教育等もサポートできます。

参加者アンケート結果では、「福祉の仕事の興味が高まった」と回答した方が90.3%（令和6年度実施）となり、多くの方が福祉への理解・関心を持ってくださいました。

福祉教育等の授業において、福祉専門職による子どもたちの気づきや振り返りの機会としてご活用ください。

ご相談、お問合せはこちら

岡山県社会福祉協議会 地域福祉部 経営支援班

☎ 086-226-3529

キャリア教育の推進に向けて、福祉職場の魅力お伝えします！ →



それぞれの立場で考えて記述しましょう 話し合いにご活用ください

市町村や学区には、どのような人や団体、福祉・教育・行政機関がいらっしゃいますか？
今後、一緒に福祉教育を伝えたい地域の人・団体はどのような人・団体ですか？

【学校・教育から】

【社協・福祉から】